

# 注目

今月は、赤瀬久容さんが島しよ部における介護の現状と問題点に注目します。

平成16年3月末現在で笠岡諸島の人口は3048人。そのうち65歳以上は1594人。高齢化率は52・3%です。

陸地部と比べると十分なサービスが提供されていません。▼ヘルパー松浦さんのお話

ちなみに岡山県は21・7%で、笠岡諸島の高齢化がいかに進んでいるかがわかります。

島しよ部のサービス利用者に対して、必要なときに必要なサービスが提供できていないという悩みを持っています。

このように高齢化が進んだ島しよ部において、介護に関する状況や課題について海援隊の大室弘子保健師とヘルパーの松浦桂子さんにお話を伺いました。

例えば、夕食の食事介助をする場合でも、船便の都合で午後4時半頃には夕食を取り終えてもらわなければいけない場合があります。これは、限られた人数で対応していることと、船便の都合で効率的に動けないことが原因です。

## 介護保険制度の恩恵があまり受けられていない島しよ部

現在、島民が在宅で利用できる介護サービスは「訪問介護」、「福祉用具貸与」、「住宅改修」のみ。中でも、市のヘルパー15名で対応している訪問介護サービスが中心で、

人やお高齢者夫婦の情報が市へ

海援隊が発足して、独居老人や高齢者夫婦の情報が市へ

## ▼海援隊大室さんのお話

「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。

まちづくり推進課モニター係

入りやすくなったと思います。しかし、依然として陸地部とのサービスの格差は大きく、いくらケアマネージャーがその人にあつたプランを立てようとしても、利用できるサービスが限られているため、どうしてもヘルパーに頼ったサービスになつていきます。

ただ、島の将来を考えたとき、島民の介護は島民がカバーすることで、必要なときに必要なサービスが受けられるようになると考えています。

今後、島民を対象にヘルパーなどを養成し、島の高齢者を島の人で支えていく体制づくりを行っていく必要があると感じています。

## 島民同士で支える

既に真鍋島では、独居老人を島民で見守つていこうと「旗たて運動」を実施しています。

これは、独居老人宅の玄関に、元気であれば黄色の旗を毎日立てる運動で、旗が出ていなければ、近所の人々が訪問して状態を確認しています。

## 夢ウエル丸の運行をやめても

島しよ部住民は、陸地部住民と同じ介護保険料を支払っ

ていながら、利用できるサービスが限定されています。そこで、この状態を改善するため、おもいきつて、夢ウエル丸の各島巡回サービス（月2回）を止め、その経費で島に訪問介護ステーションを設置してはどうでしょうか。



平成15年度の夢ウエル丸の実績は、年間220日運行し、4539人が利用。その経費として約4400万円かかっています。

また、利用者を単純に1日平均に直すと、1回に約20人が夢ウエル丸を利用し、そのうち入浴サービス利用者が4.5人、リハビリ利用者が20人、生活指導を受けた人が3人で、

1人の利用者に約1万円のコストがかかっています。

このような多額の経費を毎年夢ウエル丸にかけるよりは、島へ核となる訪問介護ステーションを設置し、そこで島民によるヘルパーの育成や研修などを行い、島で支える体制づくりを行うほうが真の島民サービスになると思います。

将来的には、休校舎などを利用して、デイサービス、シヨートステイも受けられるようになれば、身内の介護による精神的、肉体的負担は大幅に軽減され、多くの島民が住み慣れた我が家で安心して老いることができるようになると思います。

介護保障とは、介護される人とその家族が必要なサービスを受けられることを保障した公的施策です。島しよ部の人々にもこの介護保障が一日も早く実現されるよう願わずにはいられません。

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。

お便り：〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一一一

まちづくり推進課モニター係

☎ 2110 FAX 2180